

★学校の教育目標	○自ら学び考え行動しよう ○責任と思いやりの心をもとう ○健全な心と体をつくろう	★重点計画の概要 全ての生徒が「七生中生で良かった」と思えるために、 ・生命尊重、人権教育、いじめの根絶、体力向上に取り組む ・生徒にとって安心、安全な学校づくりを推進する。 ・「分かる授業」づくりを進め、確かな学力の育成と主体的な学びを育む。 ・ひとりひとりの生徒に合った特別支援教育の一層の充実を図る。 ・地域と学校が双方で連携を深めながら、次代を担う日野市民を育てる。
★目指す学校像（ビジョン）		
【めざす児童・生徒像】	①確かな学力を基盤に、将来の夢に向かって主体的に学び向上する生徒 ②礼儀正しく、真面目さや正義を大切にす生徒 ③思いやりの心もち、お互いが力を合わせてより良く生きようとする生徒	
【めざす学校像】	①生徒の健康・安全を提供できる学校 ②確かな学力と社会性が身に付く学校 ③生徒・保護者・地域から信頼される学校	
【めざす教師像】	①生徒理解に優れ、愛情と情熱をもって向き合う教職員 ②教育の専門家として、確かな指導力をもつ教職員 ③チームワークを大切にし、社会人として魅力のある教職員	

領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	取組指標		成果指標	
				取組指標	成果指標	取組指標	成果指標
いのち	■すべての「いのち」を守り、育むために 人との関わりの中で、生命の尊さや生きる喜びを実感し、よりよく生きようとする態度を育成する。 これからの社会を創る担い手として、ものごとをやり抜く強い意志と体力を身に付けさせる。	・新型コロナウイルスへの対策を通じて、継続的な生命尊重、人権尊重教育を行う。 ・人権尊重の視点に立った体験的活動の充実を図る。 ・道徳科授業の充実により、生徒の自尊感情を高めていく。 ・いじめ問題への継続的な取り組みにより、未然防止と早期発見に努める。 ・たくましく生きるための健康づくりと体力・運動能力の向上を図る。	・保健指導で感染症に対する正しい知識を身に付けさせ、自他の生命尊重や差別や偏見をなくす指導を多面的に行う。 ・総合的な学習の時間の学校全体テーマを「生きる」に設定し、防災や福祉、職業などの活動を取り入れる。さらに、命を守る視点で防災教育を実施する。 ・道徳科の授業では、生徒が生命尊重をはじめとする道徳性を養うために、考え・議論する授業実践を充実させる。 ・未来につながる創造力プロジェクトやいのちのプロジェクトの取組について、全校生徒が関わりをもてるよう、代表生徒が中心となって活動していく。 ・学校再開後には、複数の教員が生徒一人一人に積極的に関わり、必要に応じて面談等を実施し、課題の早期解決を図るよう努める。 ・「七生中学校いじめ防止基本方針」に基づき、定期的なアンケート実施や、生徒の様子について情報を共有することで、いじめ予防と発生時の迅速な対応を組織的に行う。 ・生徒の健康状態や運動能力の実態把握をするため、体力、運動能力調査や各種検診の結果等を総合して分析する。その上で、授業や学校行事、部活動を通して計画的に改善を図っていく。	4 90%以上の教員が、ねらいを理解し、実践した。	4 保護者のアンケートで、95%以上が「生命尊重や人権尊重の考えに基づく道徳教育が充実している」と回答した		
				3 80%以上の教員が、ねらいを理解し、実践した。	3 保護者のアンケートで、90%以上が「生命尊重や人権尊重の考えに基づく道徳教育が充実している」と回答した		
				2 70%以上の教員が、ねらいを理解し、実践した。	2 保護者のアンケートで、85%以上が「生命尊重や人権尊重の考えに基づく道徳教育が充実している」と回答した		
				1 ねらいを理解し、実践できた教員70%に満たなかった。	1 保護者のアンケートで「生命尊重や人権尊重の考えに基づく道徳教育が充実している」と回答した保護者が85%未満		
				4 全ての教員が、計画的、組織的に取り組みを行った。	4 生徒アンケートで「自分は、最後までやりぬくなど、根気強い方だと思う」と感じている生徒が95%以上		
安全	生徒が安心して安全な生活が送れる学校をつくる	・新型コロナウイルスの感染拡大防止のために、組織的に対応していく。 ・自他の生命を尊重する態度を育成する。 ・基本的な生活習慣の確立と規範意識の更なる向上を図る。	・校内の感染症予防対策を徹底するとともに、保健指導を通して、生徒・保護者・教職員に対して適切な情報を提供し、危機回避力を高めさせる。 ・生徒が「あいさつとマナーの七生中」というスローガンを常に意識して生活できることを目標に、上級生が下級生のモデルとなるよう、段階的、計画的な指導を行う。 ・全ての教員が生活指導基本方針を共通理解し、一貫性をもって指導を行う。	4 全ての教員が、計画的、組織的に取り組みを行い、成果を確認できている。	4 保護者のアンケートで、98%以上が「規範意識を育てる教育が行われている」と回答した		
				3 95%以上の教員が、計画的、組織的に取り組みを行い、成果を確認できている。	3 保護者のアンケートで、95%以上が「規範意識を育てる教育が行われている」と回答した		
				2 90%以上の教員が、計画的、組織的に取り組みを行い、成果を確認できている。	2 保護者のアンケートで、90%以上が「規範意識を育てる教育が行われている」と回答した		
				1 計画的、組織的に取り組みを行い、成果を確認できている教員が90%に満たなかった。	1 保護者のアンケートで、「規範意識を育てる教育が行われている」と回答した保護者が90%未満		
				4 全ての教員が、計画的、組織的に取り組みを行い、成果を確認できている。	4 保護者のアンケートで、90%以上が「基礎・基本を重視したわかりやすい授業が行われている」と回答した		
学び	■一人一人を大切にしながら多様な学びのために 「分かる」授業づくりを推進する。 主体的に学ぶ力の向上を図る。 自ら課題を発見し、考え、判断し、よりよく解決するための確かな学力を育成する。	・個に応じた指導の充実により、ひとりひとりの可能性を引き出す授業づくり。 ・かかわりの中で自分たちで考え、語り合いながら知恵を出し合える形態の学習活動。 ・ICTを効果的に活用した教育活動の推進。	・各種学力調査の結果や授業アンケート等を分析し、授業創造プランを作成し、小中連携教育を生かしながら、より良い授業づくりを実践していく。 ・授業のユニバーサルデザイン化を進めるとともに、日野市中教研や都の研修等を活用し、授業力の向上に生かす。 ・英語と数学で少数授業を実施し、個に応じた指導の充実を図る。 ・試験前や放課後、夏季休業中などの補習や学習教室を実施し、個に応じた指導によって学習内容の定着を図る。 ・生徒に身に付けさせたい力を明確にし、日野スタンダードを基盤として、生徒が自ら課題を解決する活動を支援する授業形態を創っていく。 ・校内研修で全員参加型の研究授業を実施し、教員が「新学習指導要領の理解を深め、授業力の向上に務める」。 ・ICTの活用した教材開発によって、生徒の学習意欲の向上を図る。また、デジタル教科書を積極的に活用することで、生徒の関心・意欲を高めるとともに、習熟に応じた指導の工夫を図る。	4 90%以上の教員が、計画的、組織的に取り組みを行い、成果を確認できている。	4 保護者のアンケートで、90%以上が「基礎・基本を重視したわかりやすい授業が行われている」と回答した		
				3 80%以上の教員が、計画的、組織的に取り組みを行い、成果を確認できている。	3 保護者のアンケートで、85%以上が「基礎・基本を重視したわかりやすい授業が行われている」と回答した		
				2 70%以上の教員が、計画的、組織的に取り組みを行い、成果を確認できている。	2 保護者のアンケートで、80%以上が「基礎・基本を重視したわかりやすい授業が行われている」と回答した		
				1 計画的、組織的に取り組みを行い、成果を確認できた教員が70%に満たなかった。	1 保護者のアンケートで「基礎・基本を重視したわかりやすい授業が行われている」と回答した保護者が80%未満		
				4 全ての教員が、計画通りに取り組んだ。	4 生徒のアンケートで、95%以上が「授業全体をとらえて、内容や進め方について満足している」と回答した		
支援	支援が必要な生徒に対して、適切な支援を提供できる特別支援教育の充実を図る。	・発達支援の観点に立ち、生徒の実態を十分に把握し、個に応じた特別支援教育を推進する。 ・不登校傾向の生徒と、その保護者への支援の充実を図る。	・校内委員会を活用し、生徒一人一人にとって効果的な支援の具体策を検討し、実践していく。 ・ステップ教室、リソースルームの充実により、生徒の意欲と自己肯定感を高めていく。 ・欠席が多い生徒に対しては、生徒の実態に応じて家庭訪問や放課後登校等、望ましい対応を組織的に実践していく。コーディネーターが中心となり、SCやSSW、関係機関等と連携して支援していく。	4 全ての教員が、具体的に取り組み、成果を確認できている。	4 保護者のアンケートで、95%以上が「生徒や保護者からの相談に対し、誠実に対応している」と回答した		
				3 90%以上の教員が、具体的に取り組み、成果を確認できている。	3 保護者のアンケートで、90%以上が「生徒や保護者からの相談に対し、誠実に対応している」と回答した		
				2 80%以上の教員が、具体的に取り組み、成果を確認できている。	2 保護者のアンケートで、80%以上が「生徒や保護者からの相談に対し、誠実に対応している」と回答した		
				1 具体的に取り組み、成果を確認できている教員が80%に満たない。	1 保護者のアンケートで、「生徒や保護者からの相談に対し、誠実に対応している」との回答が80%未満		
				4 全ての教員が、計画通りに取り組んだ。	4 生徒のアンケートで、95%以上が「授業全体をとらえて、内容や進め方について満足している」と回答した		
地域	■「地域をステージとした学び」を推進するために 「地域」を知り、「地域」とかかわりを持ち、「地域」に貢献する生徒を育成する。	・地域や関係機関と連携し、課題発見能力や情報分析力、課題解決力の育成を図る。 ・体験活動を通じて、地域貢献力の向上を図る。 ・地域防災に貢献できる資質や能力を育成する。	・日野市内のフィールドワークを通して、日野の歴史や文化、環境などに関する調べ学習を行い、地域に関する理解を深める。 ・育成会やPTA、親父会など、七生中に密接に関連した諸団体をはじめ、日野市役所や地域の様々な事業所や団体と連携し、フィールドワーク、職場体験、地域人材による授業などの学習が持続するよう、良好な関係を維持する。 ・地域懇談会やいのちのわ等、地域や関係機関が主催する行事に対して、生徒会が核となり、多くの生徒が積極的に参加できるような環境を整えていく。 ・避難訓練や安全指導、救急救命講習、セーフティ教室等、防災・安全教育の充実を図り、災害発生時に自他の生命を守る行動力のある生徒を育成する。 ・防災キャンプや引き取り訓練等を通して地域や家庭と連携し、災害発生時の中学生の安全確保と、支援活動における中学生の役割についての理解を深める。 ・学校が避難所としての機能を有効に果たせるよう、地域の諸団体と協力して避難所運営マニュアルの作成を検討していく。	4 90%以上の教員が、具体的な取り組みに関わった。	4 生徒のアンケートで、95%以上が「校外学習や地域の人から学ぶ機会があった」と回答した		
				3 80%以上の教員が、具体的な取り組みに関わった。	3 生徒のアンケートで、90%以上が「校外学習や地域の人から学ぶ機会があった」と回答した		
				2 70%以上の教員が、具体的な取り組みに関わった。	2 生徒のアンケートで、85%以上が「校外学習や地域の人から学ぶ機会があった」と回答した		
				1 具体的な取り組みに関わった教員が70%に満たなかった。	1 生徒のアンケートで、「校外学習や地域の人から学ぶ機会があった」と回答した生徒が85%未満		
				4 全ての教員が、計画を検討し、指導場面をつくることができた。	4 保護者のアンケートで、98%以上が「安全や防災の指導が充実している」と回答した		

※評価指標・評価基準は、2の段階を現状としています。